茨城大学 Ibaraki University　SEKISHO GROUP

みむらのぶお●茨城大学学長。専門分野は地球環境工学、海岸工学。国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」で第2～5次評価報告書の主執筆者・統括主執筆者を務めた。

持続可能な未来を拓く 新リカレント教育

産官学の連携で大学の教育力を地域社会に生かす

茨城大学学長　三村 信男　×　関彰商事株式会社（せきしょうしょうじ）代表取締役社長　関 正樹

せきまさき●関彰商事株式会社 代表取締役社長。「軸足は地元茨城に中心を置きながら、海外を含め外へ出ることで、さまざまな情報を入手し、健全なる次世代に向けてさらなる成長を目指します」と語る。

人生100年時代における社会人のリカレント教育（学び直し）に多くの大学が力を入れる中、企業・自治体等のニーズや戦略を踏まえて個別にカスタマイズしたカリキュラムを提供するという茨城大学のユニークなリカレント教育プログラムが注目を集めています。その先鞭をつけたのが茨城県内に本社を置く関彰商事株式会社でした。この先進的な取り組みが展望する未来について、茨城大学の三村信男学長と関彰商事の関正樹社長が語ります。

働き方を変える学び

三村学長　茨城大学では2016年度から教育改革を行い、学生たちが海外や地域、企業の現場で主体的に学ぶプログラムを構築しました。それと並行して、大学の教育力をもっとダイレクトに地域社会に生かせないか考えてきました。昨年4月に始動した茨城大学リカレント教育プログラムは、地域の企業や自治体ごとのニーズに応じた独自のカリキュラムを提供するというユニークなもので、大変注目されています。関彰商事のカスタムプログラムがその第一弾となり、その後の連携拡大に向けた先鞭をつけていただきました。

関社長　当社は112年という歴史の中で、トップダウンの慣習がまだ強くあります。それに対し、社員が自ら考え、改善していく雰囲気、習慣を日常的に社内に生み出したいと考えていました。三村学長からリカレント教育プログラムの提案を聞き、またとない機会だと考え、参加を決めたわけです。

三村学長　関社長は最初から、すぐ仕事に結びつくものというより、哲学や歴史、環境、地域の特性といった、教養を深めて視野を広げるようなものを要望されていましたね。

関社長　当社の場合、ある程度決まった答えがすでにあるような一般的な研修プログラムではなく、まず考えるというプロセス自体を大切にしたかった。その習慣を根付かせるには、大学という学びの場は最適であると感じました。

三村学長　社員のみなさんに変化はありましたか。

関社長　今年度だけで43人の社員が自ら志願をしてプログラムを受講しましたが、それぞれが「職場の環境を俯瞰的にとらえることができるようになった」「仕事の仕方が変わった」といった実感を得ているようです。学ぶことで芽生えた気持ちが、日常の業務にも生かされているということですね。私自身、常に社員の自己研磨を推奨する企業を目指していきたいと思いますし、他の企業にも大学でこのような機会を得られることを知っていただきたいですね。

社会の大転換期における大学、企業、自治体の連携

三村学長　社会が大転換期にある今、働く現場では、変化に対する多様な視点と、広い視野で将来の姿を考える力が必要とされています。当初から関社長は、「この会社に勤めたことで人として成長できた」と思える経験を提供する会社でありたいと話されていました。実はその言葉を聞いて、個々の企業を対象とするプログラムも人の成長という点で高い公共性を有していることに気付いたのです。

関社長　リカレント教育プログラムを受け、視野が広がり周りが見えてくることで、自分が頑張ってこられたのは自分の努力によってだけではないと分かってくる。そういう人間が、部下を正しく評価できる上司になっていきます。自ずと会社全体の雰囲気も変化していくでしょう。

三村学長　そういった社会の新しいニーズを知ることは、大学が変わる大きな契機にもなります。10代からシニア世代までの幅広い層の人たちが、それぞれの背景や課題を抱えながらひとつの場に集まり一緒に学ぶ体験を重ねることは、持続可能な地域づくりの原動力になるのではないでしょうか。大学と企業、自治体などが連携しながらそういう教育システムをいかにつくれるか、大学の新しい役割を真剣に考えるときだと思っています。

関社長　いろいろなところに勉強に出かけて、さまざまな年齢、境遇の人に出会い、他者がそれぞれ異なる目標や夢を持ち、苦労しながら勉学にいそしんでいることを理解し、互いを尊重する、そういう考え方ができる人材を一人でも多く増やしたいと、最近とみに感じています。

三村学長　それは、社会の健全さのベースをつくることですよね。茨城大学でも、5学部を有し、多面的な知を提供できる強みを生かした地域創生の知の拠点づくりを進めていきたいと思います。

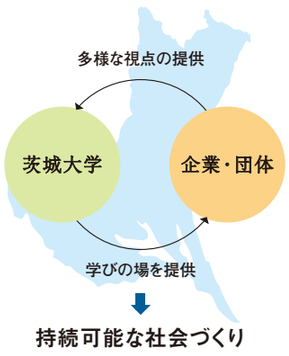
地域社会の活性化をリードする新しいリカレント教育

リカレント教育とは、社会人が必要な能力や技能を修得する学び直しのことです。

2019年4月に本格的にスタートした茨城大学リカレント教育プログラムは、1科目から自由に選べるオープンコース、体系化された科目カテゴリから選択して学ぶ専門コース、企業・自治体に応じてカスタマイズしたカリキュラムを提供するカスタムコースという3つのコースで構成されています。

このうち茨城大学のプログラムの最大の特徴であるカスタムコースは、社員・職員の学びに大学を活用したいという企業・自治体からの相談に応じて、それぞれの組織が抱える課題や戦略などを丁寧にヒアリングし、茨城大学が開講している授業科目を最適なカリキュラムに構成して提案するものです。2019年度は茨城県内の2企業、1自治体のプログラムが生まれました。今後さらに拡充していく計画です。

大学では、参加しているさまざまな企業・団体の受講者同士の交流の機会もつくっています。若い学生や大学の教員はもちろんのこと、他業種の社会人との活発なコミュニケーションが生まれることが、個の学び直しを超えて、豊かな企業文化の醸成や新たなアイデアの創出、ひいては地域社会の活性化へとつながることが展望されます。



茨城大学リカレント教育プログラム

1 オープンコース
誰でも自由に学べる（個人向け）
茨城大学の公開講座・公開授業の中から、どなたでも1科目から自由に選んで学べるコースです。

2 専門コース
じっくり学びたい方に（個人・組織向け）
体系化した科目カテゴリから選択して学ぶコースです。60時間以上の受講により受講証明が授与されます。

3 カスタムコース
相談に応じてカスタマイズ（組織向け）
企業や団体の従業員育成の支援を目的として、要望に応じて教育プログラムをカスタムメイドして提供します。

カスタムコース「セキショウリカレント教育プログラム」　受講者の声

受講科目 哲学概論Ⅰ・Ⅱ
ライフサイエンス事業部 事業推進課
鈴木 信広

仕事にも役立つ講義でした

勉強することの意義は誰もが理解しているでしょうが、何を学ぶかだけでなく、どんな環境で学ぶかも大事なのだと思いました。大学で学生に交じって授業を受けるということが、色々な意味で刺激となり、仕事とは違う緊張感はもちろん、こういった機会を無駄にしたくないという思いを強く持てたことは、プログラムの申込時には想像していませんでした。今回、私が受講した科目は哲学概論です。何の疑いもなく受け入れていた日常生活の身近な常識や価値観について、見つめ直すきっかけや考え方が得られたことが、受講して良かった点です。とりわけ、介護・保育業界に関わる私としては、道徳判断の評価に対する考え方を理解しようとすることの重要性も再認識できました。初めは、仕事とは関係のない、単なる興味から科目を選んだつもりでしたが、結果として、仕事にも役立つ講義だったと感じています。

受講科目 心理学入門
モビリティ総合企画部 マネジメント課
櫻井 永子

学生の時とは違った視点で学べました

心理学についての授業の中で、私が一番印象に残った分野は情動（感情）の心理学でした。その中でも今後の自身の行動に参考にすべきと思ったことが二つあります。ポジティブな感情は身体に大きな影響を与えることと、自分自身の感情に対する制御の方法です。怒りにまかせて言葉を発しない、行動しないように注意しなければとつくづく思いました。今回、リカレント教育プログラムを受講させていただき、社会人となってから改めて学び直すことは学生とは違った視点、仕事や日常生活と結び付けて学べて刺激がありました。

国立大学法人
茨城大学

水戸キャンパス
茨城県水戸市文京 2-1-1
人文社会科学部
教育学部
理学部

日立キャンパス
茨城県日立市中成沢町 4-12-1
工学部

阿見キャンパス
茨城県稲敷郡阿見町中央 3-21-1
農学部

茨城大学 Ibaraki University

https://www.ibaraki.ac.jp/　お問い合わせ 029-228-8111（代）

昨日より今日、
今日より明日

弊社所属全盲のゴールボール選手、山口凌河は言う。
「変化をコントロールすることが自分の成長につながる」と。
セキショウグループはこれからも変化に学び挑戦し続けます。

関彰商事株式会社　つくば本社 / 〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1-23-6　下館本社 / 〒308-8512 茨城県筑西市一本松1755-2　セキショウ　www.sekisho.co.jp

SEKISHO GROUP